

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する 仁淀川流域の自然資源を生かした地域・体験学習や伝統芸能の継承等を通して、他者と協働する力を養い、地域社会に貢献する人材を育成する
	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○「自己の能力を伸ばそうとする意欲のある生徒 ○教科の学習や実習等に真面目に取り組む生徒 ○思いやりがあり、主体的に考え行動できる生徒 ○学校行事・部活動・生徒会活動等に積極的に参加する生徒 ○自己の進路について真剣に考え、将来、地域や社会に役立つ人間になろうとする生徒	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○小規模校の特性を生かし、きめ細やかな指導により、一人ひとりを尊重した授業を展開します ○将来を見据え、自己理解を深めるためのインターンシップや地域の伝統産業である土佐和紙や郷土芸能である清流太鼓を題材とした探究学習に取り組みます ○本校との遠隔授業や県教育センター遠隔授業配信センターからの授業を選択授業として設定しています	
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○目標に向かって努力する力を育成します ○他者と協力・協働し課題を解決する力を育成します ○地域に根ざした活動を通して社会に貢献できる力を育成します		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 】
【社会性の育成】	評価 【 】
【チーム学校】	評価 【 】

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力的向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①C層以上の生徒の増加 ・1年:R8.4月()%→R8.11月33.3% ・2年:R7.4月15.4%→R8.11月23.1% ②授業外学習時間の増加 「授業外学習をほとんどしない」と回答する生徒の割合: 10%以下(R7:13.3%) ③将来のための勉強をしている生徒の増加 「将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている」の肯定的回答:100%(R7:96.7%) ④3年生進路決定率:100%(R7:100%)	・ICT支援員による研修の充実をはかり、全教員でICT機器を授業内で効果的に活用 ・月曜日放課後の個別補習を充実(今年度から理、社、情報を追加) *英数国理社情報教員とマンツーマンの添削指導を実施 ・課題テスト、学力向上テスト(漢字)の実施 ・大学、公務員模擬試験を受験 ・教育センターから配信される大学、公務員補習の受講 ・全教員で3年生の小論文面接指導を徹底				
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	コミュニケーション能力の向上及びキャリアデザイン能力の向上に取り組む、進路実現を目指すために ①将来の進路選択力や目標設定力を高め、進路実現:100%(R7:100%) ②インターンシップにおける主体的な取組:100%(R7:95.7%) ③地域のボランティア活動参加率:100%(R7:100%)	・進学ガイダンスの実施 ・個々のキャリアデザインを発表する場を設け、進路目標を明確にさせる ・キャリア教育講演会の実施 ・対話型企業説明会の実施 ・外部講師による面接、マナー指導の実施 ・地元企業と連携したインターンシップの実施 ・地域ボランティア活動への参加				
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	①「小中高合同運動祭、文化祭(文化発表会)、中高交流田植え、稲刈りは、地域の活性化及び貢献につながっていると思う」の肯定的回答:98%以上(R7:97%) ②「学校や子どもたちの課題をオープンにし、保護者や校友会、地域住民と協力して解決できていると思う」の肯定的回答:95%以上(R7:92%) ③総探(地域学習)の取組に対する肯定的回答:97%以上(R7:97%) ④地域との連携:10回以上(R7:10回以上)	・小中高の連携行事として合同運動祭を開催 ・中高の連携行事として文化発表会、交流田植え、稲刈りを実施 ・地元認定こども園との交流行事を実施 ・吾北給食センターとの連携事業を実施 ・探究(地域学)で地域の支援員を活用した土佐和紙、清流太鼓の学習を実施 ・1年生で地域課題解決の探究学習を取り入れ課題解決能力と行動力を培う				
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	①「学校の授業では、学んだ知識をもとに自ら考え、まとめたり、話し合ったり、発表したりする機会がある」の肯定的回答:100%(R7:100%) ②「テレビのニュース、新聞、ウェブサイトやSNS等を通じて、地域や社会の出来事に関する情報を得ている」の肯定的回答:90%(R7:83%) ③「高校入学以降の学習によって、環境や社会の問題に対する意識や行動に変化があったと思う」の肯定的回答:90%(R7:86.6%)	・地域協働学習を通して、生徒が各教科との相互作用を実感できるような授業づくりを目指す ・全教員が総探のサポートができる体制作り ・土佐和紙の歴史(地歴公民)、活用(地歴公民)、加工(理科、家庭科)を教科横断的に学習 ・清流太鼓の歴史(地歴公民)、演奏(体育、芸術)を教科横断的に学習 ・文化発表会等で、ICTを効果的に活用(情報との横断)したプレゼンの技術向上を目指す				

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○PRしていく学校の魅力づくり ○小学校から連続する部活動による地域活性化 ○情報発信 ○学校寮移転計画の継続	①臨時委員会の開催や情報共有:必要に応じて複数回(R7:実績なし) ②地域コンソーシアム会議実施回数:年間5回以上(R7:5回) ③ワーキング実施回数:年間3回以上(R7:実績なし) ④吾北中学校卒業生の吾北分校への進学率:50%以上(R7:55.5%) ⑤R9年度入学生:11名以上(R8年度入学生:6名) ⑥学校運営協議会等の実施回数:年間2回(R7:2回)	・教職員一丸となり学校の魅力化推進について協議 ・前年度までの「いの町中山間地域教育魅力化構想策定委員会」を正式に「地域コンソーシアム会議」と位置づけ、吾北分校の振興策について協議 ・町の方々と少人数でのワーキングを実施し、地域住民のニーズを把握することで魅力化につなげる ・HPを刷新し分校の魅力をPR ・地元の小、中学校との更なる連携			
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	①不祥事発生:0件(R7:0件) ②不祥事防止委員会の実施:年間3回(R7:6回) ③校内研修の実施:年間5回(R7:8回)	・小さな心配事でも共有し、不平や不満をため込まない風通しの良い職場環境づくり ・生徒に還元できる適切なテーマを持った校内研修を実施 ・不祥事ゼロに向け、学校長と連絡を密にし、定期的に校内研修を実施			
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○業務の助け合い ○年休等休暇の取りやすいサポート体制の整った職場環境 ○効率の良い働き方の推進	①長時間勤務者(月45時間超の教職員):月平均0.5人以下(R7:月平均0.6人) ②「教職員が協力し合って学校運営に当たっていると思う」の肯定的回答:100%(R7:95%) ③定期調査中の年休取得率:25%以上(R7:18.5%) ④「夏の勤務セレクト」利用率:25%以上(R7:25%)	・長時間勤務が予想される月には、該当教員に対する事前の声かけや、事後の健康状態確認等を的確に行う ・教職員が声をかけ意識し、業務を相互にサポートする ・職員室等での会話を豊かにし、年休等休暇の取りやすい雰囲気を作る ・各教職員がICT研修等に積極的に参加し、業務改善に努める			